

## クボタグループの使命

世界中に感染拡大した新型コロナウイルス。  
感染症対策の基本として掲げられる「手洗い」。  
日本において、それが実践できるのは  
百パーセント近い水道普及率によるものである。  
およそ百二十年前、近代化の中で  
蔓延するコレラから人々を救いたいと、  
日本で初めて水道管の国産化を成し遂げたのが、  
クボタの創業者・久保田権四郎である。

1905年頃のクボタ鉄管出荷場

## 創業以来、常に社会課題の解決 これからも人々が生きていく

### 創業 1890

#### 事業の礎

①-②-③

鋳物メーカーとして創業。  
衡器用鋳物・日用品鋳物の製造開始

○ 食料  
○ 水  
○ 環境

#### 1893

国内で初の「水道用鋳鉄管」の製造に着手



① 1905年頃のクボタ鉄管出荷場

#### 1947

農業機械化の先駆けとなる  
「耕うん機」を開発



② 耕うん機第1号機

#### 1960

農村部の労働力不足を支えるため、「トラクタ」を開発



③ 畑作用乗用トラクタ

## 企業理念

### 「クボタグローバルアイデンティティ」

#### スピリッツ

(私たちの精神・姿勢)

- 一、総合力を生かしすぐれた製品と技術を通じて  
社会の発展につくそう
- 一、会社の繁栄と従業員の幸福を<sup>ねが</sup>希って  
今日を築き明日を<sup>ひら</sup>拓こう
- 一、創意と勇気をもって未知の世界に挑戦しよう



に全力を尽くしてきました。

うえで必要不可欠な「食料・水・環境」分野で世界に貢献していきます。

社会の発展とともに

グローバル企業へ

SDGsの達成に向けて

2030

④ ⑤ ⑥

⑦ ⑧ ⑨

1962

「水処理事業」に進出し、顕在化してきた水質汚染問題に対応



事業部発足後に初受注した  
広島県三次市のし尿処理施設

1968

現在の「田植機」の原型を量産化



現在の田植機の原型となったモデル

1974

小型建機ミニバックホーの製造を開始し、小規模な都市型工事に貢献



後のクボタミニバックホーのベースとなった  
全旋回式小型油圧ショベル

2011

世界で初めて米国CARBの認証を取得するなど、世界のエンジン排出ガス規制にスピーディに対応



第4次排ガス規制に対応したエンジン

2014

フランスに大型畑作用トラクタの生産会社を設立



広大な畑で活躍する大型トラクタ

2015

ミャンマーで上下水処施設等を建設



ティラワ工業団地に施工した浄水場

クボタグループの事業領域

事業と関連の深い  
SDGs

地球環境テーマ

→P12・13参照

クボタグループは、農業の効率化によって豊かで安定的な食料の生産に貢献します。

食料



クボタグループは、水インフラの整備によって安心な水の供給と再生に貢献します。

水



クボタグループは、社会基盤の整備によって快適な生活環境の創造と保全に貢献します。

環境



ブランドステートメント  
(私たちの約束)

For Earth, For Life  
くぼた

ミッション  
(私たちの使命)

人類の生存に欠かすことのできない食料・水・環境。  
クボタグループは、優れた製品・技術・サービスを通じ、  
豊かで安定的な食料の生産、安心な水の供給と再生、  
快適な生活環境の創造に貢献し、地球と人の未来を  
支え続けます。



クボタ・グローバル・ループ